



Sapporo Gakuin University

# 学園広報

2005.6.30 No.91

編集・発行 札幌学院大学 広報課  
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地  
電話 (011)386-8111  
http://www.sgu.ac.jp

## 就職戦線

前半戦好調な滑り出し

# 札幌学院生に高い評価

## 道内金融機関の内定者大幅増

来春の入社に向けた四年生の就職活動は、早くも前半戦が終了しようとしています。業績回復、団塊世代の大量退職と少子化による若年労働者の減少を見据えて大手企業を中心に採用を増やす傾向が見え始め、新卒採用にも薄日が射してきた観があります。道内においても全国展開を進める流通業、不良債権処理が一段落した金融機関等が採用を増やし、数年ぶりに新卒採用を再開する企業も出始めています。

### 早期から職業観を醸成

早期化している企業の採用の内定者が増え、北洋銀行用活動により今年も三月から内定が出始めています。七月(内女子一名)と大きく伸びています。また、難関と言われている広告会社、旅行会社、製菓会社からも内定者が出ており、道内の企業はバブル時代と違って

二〇〇三年度からは、木曜日三講時を「進路就職指導講時」として位置づけ、三年生の四月から「進路・就職支援プログラム」を実施して職業観の醸成を図っています。採用数の増加という明るい兆しが見え始めています。採用活動への取組姿勢の違いが結果にも現れています。就職課では採用予定企業

の情報を収集し続けることも、就職活動中の四年生に対しては、後半戦に向けて就職サポート経験が豊富なキャリアアドバイザーが履歴書、エントリーシートの添削、模擬面接などを行い、内定獲得に向けての個別指導を行っています。また、今年度からは低学年次からの勤労観・職業観の醸成を図ることを目的に全学共通科目「職業と人生」を開講し、キャリア支援教育をスタートさせました。

## 新生活への不安軽減

一九八〇年から始まった恒例の新生合宿オリエンテーションが、二十六年目を迎えた今年も本学や札幌市南区定山温泉のホテルを会場に実施されました。商学部は、大半の企画を学内で実施し、学びのホームグラウンドである学内施設を知り尽くそうと学生実行委員が主体となって学内オリエンテーションを実施しました。また、それぞれの修学プランを確立するための熱心な履修指導が翌日まで行われました。

経済学部は、企画を定山溪からスタートし、クラス企画と学部交流会で学生が互いに馴染みはじめた時間帯に、社会で活躍する卒業生お二人から講話を頂きました。自身の学生生活を振り返り、緊張感あふれた新入生の中に笑顔が広がりました。

法学部は、クラス対抗綱引き大会、法学部のクラ

の情報は収集し続けることも、就職活動中の四年生に対しては、後半戦に向けて就職サポート経験が豊富なキャリアアドバイザーが履歴書、エントリーシートの添削、模擬面接などを行い、内定獲得に向けての個別指導を行っています。また、今年度からは低学年次からの勤労観・職業観の醸成を図ることを目的に全学共通科目「職業と人生」を開講し、キャリア支援教育をスタートさせました。

## 社会連携センター コミュニティ・カレッジを同時中継 道北の羽幌町と双方向で

札幌学院大学社会連携センター(札幌市大通西六丁目)のコミュニティ・カレッジ講座「様々な傷つきと心理的回復」が五月十六日に開講し、六月十三日までの毎週月曜日、五回にわたって道北の羽幌町(ヘイタウ)ネットワークを利用したWebテレビ会議システムを使って同時中継されました。この同時中継は、羽幌町教育委員会の求めに応じて実施されたもので、質疑応答もできる遠隔講座は羽幌



町で初めての試み。会場と十名が熱心に耳を傾けていました。講座は大学院臨床心理学研究科の教員が中心となっており、人生のなかで遭遇するさまざまな傷つき、大切な対象を失った時の心理、災害や事件・事故での心理的被害とその援助、思春期の子どもへの心の傷と癒し、障がい児を抱える家族とその援助などについて講義を行いました。羽幌会場からは「地方にいなから札幌と同様に学べるのは難しい」「語学やアジアの民俗についても羽幌で講座を開いてほしい」といった声が寄せられました。社会連携センターでは昨年十二月、江別市公民館にコミュニティカレッジを同時中継しており、今後も地域社会のニーズに応じて同時中継を続けていきたいと考えています。



## 85の笑顔が輝いて 第14回YOSAKOIソーラン祭り

YOSAKOIサークル「札幌学院大学・文京台」は、沖縄国際大学からの国内留学生を含む85名(うち地域の方12名)で活動。踊りのテーマは『再生』。どんなに悪い状況から立ち直り、さらに良いものへと再生する力を表現して、支部長賞を受賞しました。

五月二十七日開催の学校法人札幌学院大学第一六二回理事会、第九十三回評議員会で任期満了による役員及び評議員の選任が行われました。また、一六三回、一六四回理事会で伊坂重孝理事長と三名の常務理事の選任が行われました。

- |      |                        |    |                                   |
|------|------------------------|----|-----------------------------------|
| 理事   | 杉山 吉弘 本学教授             | 社長 | 川合増太郎 本学教授                        |
| 常務理事 | 伊坂 重孝 札幌テレビ放送(株)取締役相談役 | 理事 | 布施 晶子 本学学長                        |
| 常務理事 | 酒井 恵真 本学教授             | 理事 | 竹内 恒之 (株)小樽グランドホテル代表取締役社長         |
| 常務理事 | 杉本 修 本学教授              | 理事 | 横山 末雄 横山食品(株)代表取締役会長              |
|      |                        | 理事 | 井上 俊彌 (株)HPI代表取締役社長               |
|      |                        | 理事 | 小谷津孝明 日本橋学館大学学長                   |
|      |                        | 理事 | 土屋 晴義 元コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)常勤顧問 |
|      |                        | 理事 | 青木 雅典 (株)ホーム企画センター代表取締役           |
|      |                        | 監事 | 五ノ井 學 五ノ井學税理士事務所所長                |
|      |                        | 監事 | 加城 忠重 加城税務会計事務所所長                 |

## 新理事会が発足 理事長に伊坂重孝氏再任

五月二十七日開催の学校法人札幌学院大学第一六二回理事会、第九十三回評議員会で任期満了による役員及び評議員の選任が行われました。また、一六三回、一六四回理事会で伊坂重孝理事長と三名の常務理事の選任が行われました。

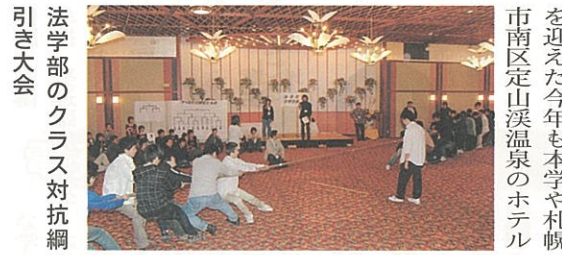
交流が図れた」をあげているのは、教職員とともに、時にはそれ以上に活躍する学生実行委員の存在が大きい。新入生時の感動が、

平成十七年度入学式が四月四日(月)、午後二時から北海道厚生年金会館ホールで行われました。本年度の入学式は大学院三研究科三十二名、五学部七学科一、一五九名でした。

布施晶子学長は式辞で、「皆さんは、大学に何を期待して入学されましたか。将来、何になりたいですか」と問いかけ、大学生活の貴重な時間を自分の進路、人生について、じっくりと考えるべき、また、人間として豊かに生きていくために必要な教養を身につけてほしいと呼

びかけました。伊坂重孝理事長は、建学の精神に触れながら「まわりの動きに追随することなく、地道な生活の中にあっても、独自の発想と創造性を人知れず磨いていって下さい」と祝辞を述べました。

入学式後のアトラクションでは北海道日本ハムファイターズのトレイ・ヒルマン監督が特別ゲストとして新生に励ましの言葉を贈りました。二十六歳のときにケガで現役を引退した体験談をもとに、「順応性をもって、夢の実現に情熱を持ち続けてほしい」と訴えると、新入生・父母から大きな拍手が起っていました。



法学部のクラ

法学部は、クラス対抗綱引き大会、法学部のクラ



平成十七年度入学式が四月四日(月)、午後二時から北海道厚生年金会館ホールで行われました。本年度の入学式は大学院三研究科三十二名、五学部七学科一、一五九名でした。

## 平成17年度入学式 1,191名が入学

新入生代表の居内克俊さん(商学部第一部商学科)は「勉学に勤しんで知識を身につけること、先輩方との交流で豊かな人間性を養い、自分を確立していきたい」と入学の決意を述べました。



「夢の実現を」と語るヒルマン監督

# 教職員 人事

◎任命  
平成十七年四月一日付  
大学院地域社会マネジメント研究科長  
稲村 勲 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
経済学部  
久保田義弘 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
総合教育センター長  
中村 永友 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
学生部長  
伊藤 雅康 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
就職部長  
佐藤 和洋 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
広報入試部長  
鶴丸 俊明 再任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
図書館長  
新國三三 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
電子計算機センター長  
石川 千温 新任

◎昇任  
平成十七年四月一日付  
採用

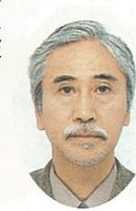
伊藤 則博  
教授 発達臨床心理学



神谷 章生  
教授 地方自治論、行政学



太田 清澄  
教授 地域社会デザイン論、生活空間計画論演習



小原 克嘉  
教授 地理歴史科教育法



櫻田 顯  
教授 英語科教育法



木戸 功  
助教授 家族社会学



小池 英勝  
助教授 情報ネットワーク



高田 洋  
助教授 データ解析



石井 光  
講師 産業組織論、産業調査実習



白石 英才  
講師 論述作文、言語と社会



山添 秀剛  
講師 現代の英文法



笹川 敏彦  
講師 商法特論



嶋田 佳広  
講師 社会保障法、行政法



馬奈木 廉太郎  
講師 日本国憲法、人権論



P・D・ゲメル  
講師 英語



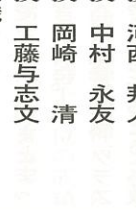
尾崎 貴司  
教務部大学院・研究課



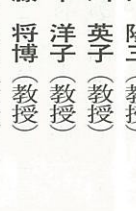
後藤 久美代  
総合政策部入試課



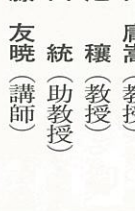
◎昇任  
平成十七年四月一日付  
教授 山本 純



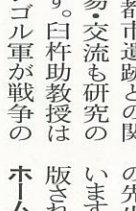
◎昇任  
平成十七年三月三十一日付  
教授 西河 邦人



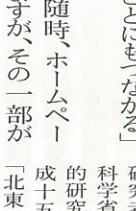
◎昇任  
平成十七年三月三十一日付  
教授 中村 永友



◎昇任  
平成十七年三月三十一日付  
教授 岡崎 清



◎昇任  
平成十七年三月三十一日付  
教授 佐藤 友暁



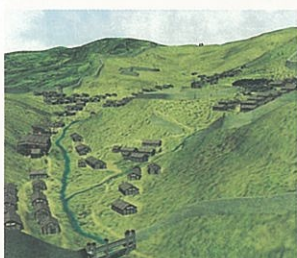
M・カイトライト(講師)  
塚田 俊一(総合政策部入試課)  
引木 英治(教務部教務課)  
◎名誉教授称号授与  
平成十七年四月一日付  
佐藤 将博  
及川 英子



## 追悼

人文学部教授高橋渉先生は、入院加療中のところ四月五日、逝去されました。先生は札幌盲学校や市立札幌病院の院内学級で三十年以上も障がい児教育に力を注がれており、平成十二年四月には本学へ赴任、教職課程の科目を中心に、「特殊教育」「障がい者教育論」等の科目を担当されました。先生のこれまでのご尽力に深甚なる敬意を表し、心から冥福をお祈りいたします。

## 中世アジアを読み解く —モンゴル帝国などの大規模遺跡を調査 ロシア、中国、モンゴルの研究機関と共同研究 8月に公開シンポジウム



ロシア沿海地方シャイガ城址の3DCG—建物を復元した様子

アジア大陸北東部に残された大規模遺跡を調査することで中世のアジアを総合的に解き明かそうとする国際学術研究が白樺圏人文学部助教授(考古学)を中心にさまざまな分野の専門家の協力が進められています。考古学、東洋史、日本史、地理学、流通史、分子生物学、物理探査など国内外の研究者約二十名がロシア国立極東工科大学、ロシア科学アカデミー、吉林大、モンゴル科学アカデミーの協力のもとに行っている「北東アジア中世遺跡の考古学」が期待されています。

遺跡の多くが大規模であるため、周辺の環境調査に始まり、GPS(全地球測位システム)など衛星を活用した調査も行われ、昨年はロシア極東の城郭遺跡、モンゴルのアウラガ宮殿跡、中国東部の都市遺跡を対象に調査が進められました。



中世総合資料学と歴史教育

この研究は北東アジアを拠点としたモンゴル族をとりあげ、どのような影響を与えていったかを彼らの残した城や都市などの遺跡から探ることもできます。城や都市遺跡は当時の政治・経済の中心であり、これらの遺跡全体を視野に入れて調査することで、中世アジアの政治や生産・流通の実態、人や情報・技術の動きが国境の枠を越えて明らかにされる

陶磁器・瓦・金属製品などの生産遺跡と消費地である都市遺跡との関係、北海道との交易・交流も研究の対象になっています。白樺圏助教授は「アイヌ民族とモンゴル軍が戦争のうちに和解し交易を行った記録が中国の文献に残っている。こういった記録を検証することにもつながる」と話しています。

この研究成果は随時、ホームページで公開されていますが、その一部が八月に札幌学院大学で開催する公開シンポジウム「中世総合資料学と歴史教育」(北海道高等学校日本史教育研究会、世界史研究会共催)で報告されます。シンポジウムではこれまでの研究成果が情報技術を駆使して披露されるほか、教育の現場

### 消費収支計算書 (単位:千円)

	2004年度決算	2005年度予算
学生生徒等納付金	5,053,002	4,713,000
手数料	80,893	78,500
寄付金	14,064	28,600
補助金	383,027	357,000
(内 経常費補助金)	(338,556)	(352,200)
資産運用収入	167,064	168,600
資産売却差額	71,109	70,000
事業収入	8,951	0
雑収入	153,770	108,400
帰属収入合計	5,931,880	5,524,100

基本金組入額合計	△ 1,148,941	△ 1,028,400
消費収入の部合計(ア)	4,782,939	4,495,700

	2,954,322	2,932,000
人件費	2,954,322	2,932,000
(内 退職給与引当金繰入額)	(64,981)	(200)
教育研究経費	1,559,110	1,504,200
(内 減価償却額)	(424,944)	(396,500)
管理経費	402,934	380,200
(内 減価償却額)	(61,857)	(55,300)
借入金等利息	6,197	1,664
資産処分差額	28,558	116,100
徴収不能引当金繰入額	708	800
予備費	-	55,000
消費支出の部合計(イ)	4,951,829	4,989,964

消費収入超過額又は消費支出超過額(ア-イ)	△ 168,890	△ 494,264
翌年度繰越消費収入超過額	1,539,379	1,045,115

### 貸借対照表 (単位:千円)

資産の部	本年度末(2004年度末)	前年度末(2003年度末)
固定資産	19,459,318	18,450,710
有形固定資産	12,545,680	11,916,749
その他の固定資産	6,913,638	6,533,961
流動資産	8,266,007	8,498,352
資産の部合計	27,725,325	26,949,062

### 資金収支計算書 (単位:千円)

	2004年度決算	2005年度予算
学生生徒等納付金収入	5,053,002	4,713,000
手数料収入	80,893	78,500
寄付金収入	9,360	8,200
補助金収入	383,027	357,000
資産運用収入	167,064	168,600
資産売却収入	2,715,782	2,100,000
事業収入	8,951	0
雑収入	153,770	108,400
借入金等収入	11,700	9,300
前受金収入	769,117	764,400
その他の収入	2,477,064	2,528,153
資金収入調整勘定	△ 926,651	△ 854,017
前年度繰越支払資金	2,200,186	1,963,110
収入の部合計	13,103,265	11,944,646

	2,978,342	2,986,000
人件費支出	2,978,342	2,986,000
教育研究経費支出	1,134,166	1,107,700
管理経費支出	341,077	324,900
借入金等利息支出	6,197	1,664
借入金等返済支出	110,693	70,400
施設関係支出	930,428	1,307,800
設備関係支出	209,159	277,900
資産運用支出	5,365,706	4,110,000
その他の支出	129,143	100,215
予備費	-	55,000
資金支出調整勘定	△ 64,756	△ 95,482
次年度繰越支払資金	1,963,110	1,698,549
支出の部合計	13,103,265	11,944,646

### 負債の部 (単位:千円)

	本年度末(2004年度末)	前年度末(2003年度末)
固定負債	1,449,922	1,532,492
流動負債	995,449	1,116,667
小計	2,445,371	2,649,159

### 基本金及び消費収支差額の部 (単位:千円)

	23,740,575	22,591,634
基本金	23,740,575	22,591,634
消費収支差額	1,539,379	1,708,269
小計	25,279,954	24,299,903

負債の部・基本金及び消費収支差額の部合計	27,725,325	26,949,062
----------------------	------------	------------

## 2004年度決算並びに2005年度予算

2005年5月27日に開催された第162回理事会において学校法人札幌学院大学の2004年度決算並びに2005年度予算が承認されました。

### 2004年度決算の概要

情報ポータルシステムの稼働(履修登録、講義連絡、成績確認等)、奨学金制度の拡充(奨学金額の引き上げと給付制度の新設等)、総合体育施設の建設等キャンパス整備計画に着手しました。帰属収入の合計は59億3,188万円、基本金組入額は11億4,894万円となり、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入の部の合計は、47億8,294万円となりました。基本金組入のなかには、第2号基本金(新校舎建設資金の6億5,000万円)、第3号基本金(国際交流基金、奨学金の3億2,746万円)として積み立て中のものが含まれており、その一部は基金としてすでに運用しています。

帰属収入では、資産運用収入、資産売却差額、事業収入、雑収入で増加しました。おもに有価証券の売却、受取利息のアップ、事業収入の受託研究4件等によるものです。学生納付金、手数料収入、補助金収入等では、留年生、退学者の増加、入学志願者の減少、基幹ネットワーク整備計画の一部変更等による補助金の減額等により収入が減少しましたが、ほぼ当初予算どおりの決算額(298万円増)となりました。

消費支出は49億5,183万円となりました。その結果、2004年度の消費収支差額は1億6,889万円の消費支出超過となりましたが、このなかには前述の新校舎建設資金等の基本金が含まれています。これにより翌年度繰越消費収入超過額は15億3,938万円となりました。なお、帰属収入に占める人件費の割合は49.8%、教育研究経費の割合は26.3%、消費支出比率は83.5%という状況です。また、借入金(A館・B館、図書館・研究棟建設)は学園債を除き平成17年度に返済完了となります。

### 2005年度予算の概要

本年度予算のおもな特徴は、①教育内容・方法の改善(FDの推進等)と学生サポートシステムの整備、②就職活動の支援強化(インターンシッププログラムの充実等)、③広報活動の充実・強化、④学生生活の支援(奨学金制度の充実等)と課外活動の振興(総合体育施設の整備等)、⑤情報化の推進と情報セキュリティ体制の確立、⑥国際交流の推進、⑦研究条件の改善・整備、⑧生涯学習の推進と産学官の連携(社会連携センターの生涯学習活動、受託研究等)です。本学園における教育・学習活動、調査・研究活動の充実を図り、所期の目標を実現するために財政基盤を強化していくことに努めています。

# 見て、聞いて、体験して大学選び オープンキャンパス 年三回に

最近の高校生の大学選びは様変わり、大学の体験・見学に積極的に取り組む高校が増加しています。生徒は進路選択について考えさせる一環として、また、実際に生の大学へ触れさせて、ミスマッチの無い大学選びと進路への目的意識を早期に持たせることをねらいに行っているようです。

## 3,740人がSGUの魅力を実体験 -昨年度 模擬授業・施設見学、出前講義など-



土器制作体験で縄文文化にアプローチ

オープンキャンパス日程  
7月2日(土)  
7月30日(土)  
10月2日(日)  
いずれも午前11時から午後4時まで

## 教職員が連携して ひとりひとりの学生を支援

近年、「自分のやりたいことが見つからない」という学生が増えています。二〇〇二年度に実施した「学生生活実態調査」では、彼らが思い悩む姿、そして親身になって相談に応じてくれる人に出会えない苦悩が浮き彫りになりました。調査を担当した内田司人文学部教授(社会学)は、「学生の心の揺れに真摯に向かい合い、解決するための支援を強化し、少しでも多くの学生が夢と希望をもって本学を築き立てていける」施策の必要性を訴えています。

### 教職員と学生との距離を近づける

昨年、学生のための「情報ポータル」システムが稼働しました。インターネット上で、学生生活に役立つ情報を手に入れ、教員との情報交換ができるポータルサイトです。学生はこのシステムを使って大学との

## 電子的な学生指導シート「はぐくみ」を活用

距離を縮めたいと考えているようです。五月に実施したアンケートでは、「授業や進路に関する質問や相談をするために教員の研究室を訪ねてもよい時間帯がわかる機能」を求めた学生が半数を超えました(五八・一%)。「インターネット環境で先生方とつながり、学生との距離をより身近に」という意見も寄せられ、教員との日常的な触れ合いを求める学生の姿が明らかになっています。

### 教職員が連携した支援

入学する学生の基礎学力、学習意欲、価値観が多様化する時代において、大学には、ひとりひとりの学生に近づき、彼らの声に耳を傾け、悩みを受け止め、共に考え、問題解決のための助言を与える取り組みが求められています。本学ではこれを推進するため、電子的な学生指導シート「はぐくみ」の運用を

## 韓国 東國大から交換留学生

東國大(韓国・ソウル市、慶州市)から交換留学生として崔珍花さん、方珍さんが来学し、人文学部人間科学科で学んでいます。崔さんは酒井恵真ゼミナール(現代日本社会論)、方さんは鶴丸俊明ゼミナール(孝子思想)に所属。来日して一カ月ほど経った五月初め

お二人にお話を伺いました。韓国を離れての生活は慣れましたか。崔さん すぐ慣れましたが食事の違いが大きく、学生食堂で何を選べばよいか困るときもあります。方さん 必要なものは近くのスーパーで買えるので、

でみたいと思いました。雪も楽しみたいです。方さん アイヌ文化、アイヌ言語に関心があり、東國大の先生からも推薦されました。北海道の地名もアイヌ語由来のものが多いと聞いています。崔さん 札幌学院大学の授業の印象は。崔さん 今はまだ、授業の内容が十分に分かりませんが、日本語が上手になったら、面白そうだと思います。



昼食を囲み談笑する留学生

## 留学生を囲んで 昼食交流会

留学生交流会が五月十二日、五十年記念館八階ラウンジで開催され、中国・韓国からの留学生十三名が参加、国際交流委員や東國大の歓迎プログラム実行委員会の学生と昼食をとりながら和やかな時間を過ごしました。

国際交流センター長のティモシー・グロウズ人文学部助教授は「日本人の学生との交流が大事。勉強や生活で心配、不安を感じたらがまんをしないで言ってほしい。がんばって下さい」と激励、留学生はバイキング形式で用意された昼食を思

い思いにテーブルに運び、話を弾ませていました。中国出身の林永勇さん(経済学部三年)は札幌学院大学について「他大学より単位をとるのが難しいように感じるが、勉強するなら札幌学院大学だ」と語り「できれば日本で就職したい。あと二年間、勉強をがんばります」と話していました。

## 複数の教職員がケア 「はぐくみ」から個性、能力を見出す

この「はぐくみ」には、個々の学生の学修状況や大学での諸活動、指導の経過が記録されています。たとえば「最近、授業欠席が目立ってきた」という状態から学生の「つまずき」の予兆を知ることが出来ます。この学生を指導する立場にある複数の教職員は、その経過を慎重に見守りながら、必要に応じて専門性を発揮して学生をケアします。あるいは、「はぐくみ」から個々の学生の個人的な魅力や個性・能力を見出し、これを勇気づけ、豊かに伸ばす教育を展開します。

法学部の家田愛子助教授(労働法)は「本学の教員が中心となって、一人前の社会人になる準備として大学で最低限身につけてほしい教養・知識・モラルなど、いわば大人の常識をまとめ、十八歳からの教養ゼミナール」を出版しました。

## 大学で学んでほしい教養 本学教授らが入門書出版

それぞれの専門家が執筆しています。最低限の教養とは、いかに心をもって勉強を深めていけば専門的知識の領域にたどり着くように参考文獻の工夫もされています。大学では必須のレジュメの作り方やレポートの書き方も具体的にわかりやすく例示されています。北樹出版 二、五二〇円

## 「土曜公開講座」開講 市民と机を並べて四半世紀

昭和五十五年に大学と地域社会の結びつきを強める、社会人に生涯教育の場を提供しようと始められた土曜公開講座が今年で二十六回目を迎えました。今年度の土曜公開講座は五月十四日から江別市大森公民館で始まり、今回のテーマは「知半解：知ってのつもりでの再検討」で、札幌学院大学人文学部に所属する教員が社会福祉学、

## 国際学術交流協定校 中国人民大学 経済学院長らが来学

中国人民大学の楊瑞龍経済学院院长、于同申教授(国際学術交流委員長)が四月二十日、商・経済学部(国際学術交流委員)の学生の前で講演しました。楊経済学院院长は「グローバル経済下の中国国内企業改革」について講演、二十数年前から始まった国有企業改革が未だ目標の四〇%にとどまっており改革の難しさを説く一方、中国経済の発展に国有企業改革が不可欠であることを強調しました(写真)。「マクロ経済管理下の中国経済状況」と題して講演した于教授は、市場経済を経験するなかで成功した面と抱えている難問を率直に紹介、また、質疑応答のなかで反日デモに触れ、中日両国は相互理解と友好交流が大切、二十年前に両国は補完性のあるパートナーになることを述べました。質問の内容から真面目に勉強に取り組んでいる姿勢が感じられたと印象を語りました。今回の講演会は中国人民大学が日本の提携大学と交流を深めるために計画したもので本学を含め九州大学、京都大学、早稲田大学などを訪問しました。本学は一九九九年に交流協定を締結、毎年、同大学で約一カ月の夏期海外研修を実施しています。

## 商学部・経済学部の学生 のべ六百人を前に講演

中国人民大学の楊瑞龍経済学院院长、于同申教授(国際学術交流委員長)が四月二十日、商・経済学部(国際学術交流委員)の学生の前で講演しました。楊経済学院院长は「グローバル経済下の中国国内企業改革」について講演、二十数年前から始まった国有企業改革が未だ目標の四〇%にとどまっており改革の難しさを説く一方、中国経済の発展に国有企業改革が不可欠であることを強調しました(写真)。「マクロ経済管理下の中国経済状況」と題して講演した于教授は、市場経済を経験するなかで成功した面と抱えている難問を率直に紹介、また、質疑応答のなかで反日デモに触れ、中日両国は相互理解と友好交流が大切、二十年前に両国は補完性のあるパートナーになることを述べました。質問の内容から真面目に勉強に取り組んでいる姿勢が感じられたと印象を語りました。今回の講演会は中国人民大学が日本の提携大学と交流を深めるために計画したもので本学を含め九州大学、京都大学、早稲田大学などを訪問しました。本学は一九九九年に交流協定を締結、毎年、同大学で約一カ月の夏期海外研修を実施しています。

心理学、平和学、社会学、哲学、教育学などそれぞれの専門的研究領域から話題を提供し七月十六日まで十回にわたって講演を行うことになっています。

第一回は松本伊智朗人文学部教授が「凶悪化する少年犯罪? 親子どもに関する「知ってのつもり」と題して講演しました(写真)。「凶悪少年犯罪が増えている印象をもつが報道される割合が増えたことも一因」と述べ、少年犯罪の殺人事件の検挙人数は昭和四十年代以降減少している統計を紹介しながら「ひとつひとつの事件そのものは深刻」「事件を冷静に分析して考え直さなければならぬ」と強調しました。会場を埋めた一〇〇名を超える受講者はメモをとりながら熱心に耳を傾けていました。

楊経済学院院长(写真左)の講演に熱心に聞き入る学生たち

### 子どもを対象とした地域貢献活動



「ちゃんと出来るかな？」わたあめ製造機づくりに子どもたちは興味津々。

地域の子どもたちと学生・教職員との交流活動「Let's遊ベンチャー in SGU」が五月二十一日、札幌学院大学で行われ、四歳から十一歳までの子どもたち二十七名と学生・教職員二十九名がわたあめ作り体験などで交流しました。

## 「Let's 遊ベンチャー in SGU」がスタート 小学生がわたあめ作りを体験

スタッフといっしょにアルミ缶を利用して簡易わたあめ製造機を製作。釘で穴をあけたアルミ缶にザラメ糖を入れ、モーターで回すとわたあめの出来上がり。子どもたちは「想像以上においしい」と手作りわたあめを手にとりこり。

## 体育系クラブ 春季活動報告

クラブの今年度春季の主な活動結果についてご紹介。男子硬式野球部は、「学生テニスストーナメント」(四月)のダブルスで竹田・五十嵐組がベスト8、古館・小笠原組、片山・大場組がベスト16、シングルスで古館京平君(三年)がベスト16の好成績を残しました。



## 卒業生 この人—— プロ野球 セントラルリーグ審判員 原 伸一朗 さん

原 伸一朗 さん

「ヒズ アウト」をコールする原さん =ヤクルト戸田球場サブグラウンドにて

を目標していた原さんは、大学卒業後、東京都大田区立大森第八中の身障学級に介添員として勤務。地元少年野球チームのコーチとして地域の審判講習会に参加するなかで熱心な指導を受け、審判員に魅力を感じたといっています。

父母と大学との相互交流の場、父母懇談会を札幌学院大学後援会との共催で開催いたします。

2005年度 父母懇談会 青森市 7月9日(土) 青森国際ホテル



父母懇談会の要望で設置された新聞閲覧コーナー

「講演と音楽の夕べ」のご案内 青森市民講座 平成17年7月8日(金) 開演 午後6時30分

苦小牧市民講座 平成17年10月21日(金) 開演 午後6時00分

第29回学術講演会 平成17年11月4日(金) 開演 午後6時30分



全日本選抜チアリーディング選手権大会での準決勝演技



トレーニング方法を実技指導する清田源さん

メジャーリーガーのトレーナー 怪我をしないトレーニングを指導



4/19付週刊スポーツ面談で紹介された提供 道新スポーツ

ファイターズ主催試合はSGUバレーンに注目 —ファンへのホームラン賞「バレーン弾」第1号は新庄選手—

## 日韓友好の架け橋—ソウル国際市民マラソン 陸上競技部に感謝牌

「日韓友好年二〇〇五」の今年、第八回ソウル国際市民マラソン大会に出場し

陸上競技部に三月八日、た陸上競技部に三月八日、朴永石ソウル市民マラソン大会長から感謝牌が贈られました(写真)。

感謝牌 技粋 貴校は、国際スポーツ交流を積極的に推進しており、ソウル市民マラソンには第二回から第七回まで連続して誕生しました。

て参加し優秀な成績を収めました。韓国国交四十周年を迎え、多くの市民と絆を深めていただくを願うとともに、貴校の国際交流の精神に心より敬意を表します。